

## 沖縄普天間基地問題

みなさん、こんにちは。日本共産党です。

この場所をお借りしまして、いま大きな問題になっている沖縄の普天間基地問題について、ひとこと訴えさせていただきます。よろしく願いいたします。

今月4日、鳩山首相が、普天間基地「移設」問題で、はじめて沖縄を訪問しました。鳩山首相が、県知事に示した政府の方針は、県内の名護市沿岸部と鹿児島県・徳之島へ移設するという案でした。この鳩山首相の表明は、先日9万人が参加した沖縄県民大会で示された「普天間基地をただちに撤去」「新基地はいらない」との県民の総意を踏みにじるもので、いま沖縄は「怒り」に満ちあふれています。

みなさん。そもそも、普天間基地の「国外・県外撤去」というのは総選挙のときの民主党の最大の公約の一つでした。沖縄の人たちは、それを信じて多くの人が民主党に期待しました。しかし、それを首相は自らやぶり捨てることを公言したわけです。これほどの公約違反はありません。しかも、いまになって、『県外移設』というのは、民主党の公約ではなく、私ひとりの考えだった」とまで言いました。こんなこと、許されるはずがありません。

みなさん。普天間基地周辺の人々は、騒音に苦しみ、事故の危険、米兵犯罪の危険に長い間苦しめられてきました。一刻も早く撤去するのは当然のことです。さらに、この普天間の苦しみは、どこに移しても同じ苦しみであり、徳之島の人々が移転を拒否しているように、住民合意を得られるところは日本のどこにもありません。アメリカに持って帰ってもらうべきで、アメリカ国内のどこにおくかは、アメリカ自身が考えるべきことではないでしょうか。

みなさん。鳩山首相は沖縄での記者会見でこういいました。「学べば学ぶほど、沖縄の海兵隊の抑止力という役割を維持しなければならないとの思いに至った」と。とんでもありません。鳩山首相が本当に「学んだ」というなら、海兵隊の役割が、抑止力どころか、他国を攻撃する役割しか持たないことははっきりするはずです。ほんとうに「学ぶ」というなら、沖縄の人々の痛切な叫びが聞こえないはずはありません。

みなさん。沖縄の人々は、あの戦争で無数の人々の命を奪われ、つづけて米軍の銃剣とブルドーザーで土地を奪われて基地をつくられ、それから65年間、様々な恐怖におびえて暮らしてきました。「もう基地はいらない」…これが圧倒的な県民の声です。そしてついに「基地撤去」の第一歩をかちとろうと立ち上がっています。この沖縄の人々に、日本全国の人々が固く団結しようではありませんか。日本中の世論で政府をおいつめ、普天間基地の無条件撤去をかちとろうではありませんか。

私たち日本共産党は、志位委員長を先頭にしてあの沖縄県民大会にも参加し、先日はアメリカの大使に面会し、直接、普天間基地は無条件に撤去すべきだと申し入れました。一方、自民党や公明党は、民主党の態度を批判はするものの、辺野古への基地建設を主張しています。これも県民の意思をふみにじるものです。

アメリカに堂々と基地撤去を迫っている政党は日本共産党だけになっています。日本共産党は、これからも沖縄の人々と連帯し全力でたたかっていきます。全国で沖縄の人々と連帯の声をあげていこうではありませんか。いま、署名活動もしています。ご協力をお願いいたしまして、訴えをおわらせていただきます。